



一九五一年を顧みて

昭和鑛業社長 川北順之祐

茲に二十世紀後半第一年を送るに方り過去年間を顧みますと、講和、安全保障兩條約の調印を始め、昨年に引續き朝鮮動亂の解決見透し難、新たにイラン、エジプト兩問題の發生等により世界二大陣營の對立相剋とともに、自由國家群の準戰體制は一段と進んで來ました。

斯かる情勢下に、我國も近く國際社會に活躍し得ることとなりましたが、經濟面に就いてだけ觀ましても、其の規模の狭少、基盤の脆弱等で自立達成は前途程遠しの感を免れません。貧弱な資源を擁し、殊に密接な關係にある近隣諸邦の對日感情必ずしも良好で無い環境に於きまして前途猶幾多の困難と試煉を覺悟しなければならぬ事と思われます。

我鑛業界は朝鮮動亂の勃發前後を契機として海外市況の強調、國連軍の朝鮮出動に伴う特需等に幸せられ、悲境を脱却し本年上期には各社公正に戰後最高の成果を收められた次第であります。

銅を初め總ての鑛産物は軍需物資としてのみで無く平和産業にも不可欠の重要資材であり、需要は年と共に増加を豫想されますが、一面資本主義經濟に付纏う恐慌、不況の暗影は如何にしても之を拂拭し去る事は出來ませず、今にして万全の策を講じて置かなければ悔を百年の後に殘す事となるは過去の經驗を示す處であります。

對策としては、自己資本の蓄積とか能率の増進等は獨り鑛業界のみで無く、申す迄もありませんが、未開發地域を開發して常に新鑛源を確保して行かねばならぬ事は鑛山特有の仕事で自衛上必要ならばかりで無く又鑛業に携る者の責務であると信ずるのであります。

然し資本や能率の問題と異り、鑛業の特殊事情に對する認識は殘念ながら極めて淺いものでありますから最近盛になりましたPR運動其他の機會を利用して、鑛物資源は再生産されない事資源に乏しいとはいへ猶幾多未開發地域のある事、この開發には豫想外の努力と經費を必要とする事等について廣く認識を得る必要を痛感致します。また國家に對しては謂れ無き保護を求めものではありませんが少くも業者の意欲を阻害するが如き施策無からん事を強く希望するものであります。

日本鑛業協會誌(第四卷第十一號)

十一月合併號目次

(巻頭云)

☆一九五一年を顧みて……………川北順之祐…一

☆最近の選鑛……………大窪一男…二

☆銅、亜鉛と英連邦……………W・H・ヘンマン…五

☆昭和二十六年日本鑛業協會賞

受賞者氏名発表……………ハ

☆昭和二十五年の

探鑛結果の検討……………志保井利夫…二〇

☆タイ、ビルマ印度鑛業

視察報告(下)……………平塚保明…三

☆「特集」關東信越鑛業の概況……………三

▽月間の動き(餘滴)……………突

▽ニュース……………突

▽協會だより……………五

▽資料……………三

▽二十六年年度總索引……………英

〔表紙寫眞〕

別子鑛山第四通洞入口

〔巻末挿込添附資料關東信越鑛業參考地圖〕